

書道体験を核とした地域連携プログラム
(学習ネットワークと生涯学習：
公開シンポジウム「学習ネットワークと生涯学習16
」)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-05-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉崎, 哲子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008432

報告3

書道体験を核とした地域連携プログラム

杉崎哲子（静岡大学教育学部准教授）

皆さん、こんにちは。私は教育学部の芸術文化課程書文化専攻の担当をしています。御殿場南高校には、実は8年ぐらい前に非常勤講師として国語を教えに行っていました。6月ぐらいになると、廊下にもややと霧がかかった記憶があります。校内に霧がかかる学校なんて、とても珍しいと思います。今の時期はまだ大丈夫ですか。寒いですよ。私は今は静岡に来ていますが、当時いた長泉と御殿場とでは気温が2度違いました。長泉と静岡も2度違うので、恐らく4度くらい御殿場南高校との気温差があると思います。ずっと車で走って裾野市の岩波あたりに行くと、急に雪が降ってきたりということもありました。すごく懐かしいです。

この中で書道を選択している人はいますか？ 何人かいますね。書道を選択していない人も、中学校で書写はやりましたよね。好きだった人？あ、いない。嫌いだった人？あ、いっぱいいる。嫌ですよ。うまく書けと言われてもうまくいかない、用具の支度も面倒くさい。どうしたら書道を楽しんでもらえるか、そんなことを考えながら、書文化を担当しています。

まず書文化専攻について簡単に説明をします。各学年5人で、実技試験もあって、非常に倍率が高いのです。昨年(2012年)は6.8倍。その前の年(2011年)が5倍ぐらいです。もちろん書道が好きなきが来ます。しかし、高校で書道をやっていた子ばかりではないのです。高校に書道部がなかったとか、芸術選択から抽選で漏れたとか、書写をやっただけ、あとは少しお習字の塾に通っていたという子も入って来たりします。書く時間が長いので大変ですが、やはりみんな、書くことが好きですね。

■小学校・中学校・高等学校・大学等での書道体験の実施

今、卒業書展が近いので、みんなで準備をしています。作品ももちろん夜な夜な書いていて、昨日も私も付き合い、実は徹夜をしてしまいました。そういうことが多々あります。地域貢献はずっと前からやっています。私は専任の教員になって3年ですが、それ以前も非常勤で静大に来ていました。その時、静岡市の視聴覚センター・マビック、その前は文化振興財団と一緒に、書道体験をしました。「書き文字で伝える静岡の魅力」は、視聴覚センター・マビックでやったものです。

図1は、静岡市立富士見小学校での書道体験の様子です。最初に、「見せよう 静岡の魅力」というテーマで、何を書きたいかを考えてもらいます。静岡の魅力って何だろう。「タミヤのプラモデル」「おいしいお茶」などとアイデアを膨らませたり、字形を考えたりした後、では実際に書いてみようということで、体育館で大きな下敷きを広げて、思い思いに書きました。また、静岡市立竜爪中学校では「歴史に出てくるいろいろな人の言葉、名言を書いてみよう」ということで、細字で短冊や色紙に書きました。あるいは、静岡市立商業高校では、「産業に生かせるような看板の字を作ろう」というテーマでやったり、大学では「国際交流」をテーマに留学生たちに書を体験



図1 小学校での書道体験

してもらったりなど、地域の方々に書を楽しんでもらう活動をしてきました。

■親子でならい教室やアートの年賀状づくり

次は、「親子でならい教室」です。これは今も継続しているのですが、毎年、夏休みになると浜松市の賀茂真淵記念館へ学生が2名ずつ行き、講師を務めます。図2は今年（2013年）の夏にやったときのものです。私のゼミには3年生に1人、2年生に1人男子学生がいますが、あとはみんな女子学生です。この時は3年の男子が行きました。最初は平仮名の字源や真淵の言葉などを親子でてならいするのですが、お母さんがあまりうるさく言うのでそれが嫌だ、親子ではなく子どもだけにしてほしいという感想もありました。

それから、駿河区の南部公民館で一般の方向けの年賀状講座を開きました。ついこの間は、清水区の江尻生涯学習交流館で「アート」のような年賀状を作る講座を担当しました。



図2 親子でならい教室

■しずび書き初め大会

昨年（2012年）は静岡市美術館との協同事業で、「しずび書き初め大会」もやらせていただきました（図3）。ちょうど静岡市美術館が「近江巡礼 祈りの至宝展」という特別展を開催していたのです。先ほど見てもらった出前授業はお願いされたり、こちらから出向くという関係のものでした。でもこれは、静岡市美術館としては「近江巡礼 祈りの至宝展」に入場してもらいたい、こちらは書き初めを体験してもらいたい、というように両者の思惑は違うのですが、それがうまくかみ合って一つになっているところが、これまでの出前授業と違うところでした。展覧会初日の正月2日、3日に書き初めを実施しました。



図3 「しずび書き初め大会」参加者集合写真

出前授業をするときには、大学内で十分に準備をします。しかし美術館でやるときには、相手はプロですから、例えば応募をかける際の言葉の一つ一つ、発信の仕方、応募を受け取ったときの通知の仕方、電話の取り方など、事細かに打ち合わせが必要で、駄目出しがとにかくたくさん入ります。しかし、学生にとってそれは大変有意義なことだと思ったので、妥協を許さないやりとりをお願いして関わらせてもらいました。

静岡市美術館では、この前に2年ほど「慶喜展」に合わせて、徳川家に残る「誠」という字などを書く書き初めをしていました。ただそれは、書いて参加者同士で見せ合って終わりだったものですから、それではもったいないということで、私たちが乗り出したわけです。書文化の学生が実際に書いて見せ、企画展の「楽山楽水図」や「知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ」という『論語』の一節の説明をするなどの工夫を加えながら、参加者の意欲を高めていきました（図4）。

応募用紙やポスターを作り、著作権の問題に気を遣いながら資料もたくさん作りました。このスライドにある資料も全部学生が作ったものです。パフォーマンスのタイムスケジュールもみんな学生が相談し



図4 「楽山楽水図」

て考え、美術館の方から駄目出しが出ると、その都度修正を入れていきました。

皆さんは葵タワーを知っていますか。JR静岡駅のところにある大きなビルですが、静岡市美術館はそこにあります。壁が真っ白な多目的ホールを汚してはいけなかったので、透明ビニールを敷き詰めました。一般の来場者もいるので、見た目への配慮から古新聞では駄目なのです。

中には得意な字を書く子もいましたが、実際に「楽山楽水図」を見た後で寄り合い書きをした三世代家族もありました(図5)。寄り合い書きは、以前の「慶喜展」のときに徳川家三世代にちなんで市の美術館がやっていたものです。それを基に、今回も寄り合い書きがやれたらいいねということで、お父さん、お母さん、ちびちゃん、お兄ちゃん、三世代みんなで書きました。難しい字も書いていますね。図6のお父さんは、実はスペインの人です。国際結婚され、隔年で、お正月は日本とスペインとを行き来されています。今回は日本に来るからということで、おじいちゃんが申し込みをしてくれました。この後すぐに旅立たれたので、残念ながら書道展は見ただけませんでした。他の皆さんも思い思いに、いろいろな書体を調べて書かれました。その会場ではパネル展が開かれていたので、パネルを汚さないように、ものすごく気を遣いました。

この時の作品は全て学生が表装しました。「祈りの至宝展」に合わせ、「想いや願いを筆に込めて」と題して書道展を開かせてもらいました(図7)。

市の美術館から「寄り合い書きをしたい」「寺子屋の図は入れてほしい」「『楽山楽水図』を見てほしい」「説明をしてほしい」「動きを見せてほしい」といろいろな要望があったので、書文化専攻としてはそれを入れ込んだ形で、パフォーマンスを入れたり、配布資料を充実させたりという対応をしました。家族編と個人編という形で2日間に分けてやるというのも、みんな美術館からの要望に応じてやったことです。

美術館が実施する書き初めは、私たちが加わることによってさらに発展しました(図8)。しかも作品展示をしたので、自分の書いた文字をもう一度見ると達成感が湧き、やはり展示されるとなると気合いを入れて書きますし、互いに鑑賞し合う喜びもあったと思います。年配の方がお礼状をくださったのですが、「とにかく書いたのが楽しかった。その後、自分の作品をもう一回見るのがまた楽しかった。(返送された作品の)包みを開いて見たときに、あ



図5 書き初めの様子



図6 作品発表

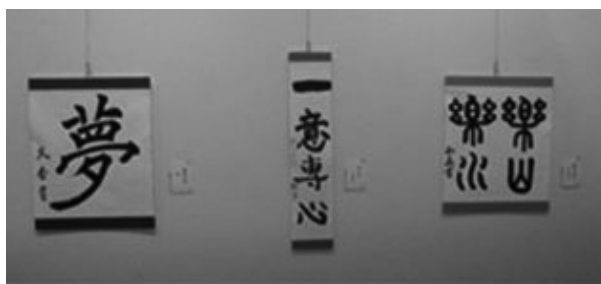


図7 書道展「想いや願いを筆に込めて」展示作品

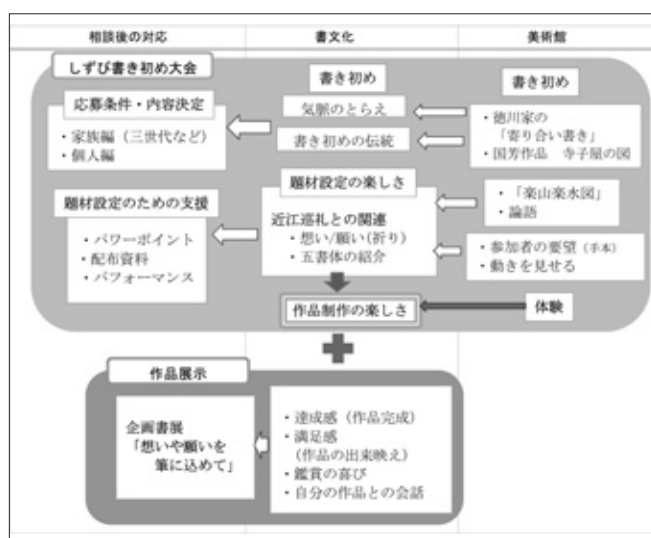


図8 本プログラムの実施内容決定の経緯と効果

らためて喜びが伝わってきた」と言ってくださいました。とてもよかったと思っています。

■「ために書く」～授産施設の製品への書の提供

今年度（2013年度）は、今ちょうどやっているところなのですが、県内に200ある授産施設を取りまとめられている「オールしずおかベストコミュニティ」というNPO法人と連携して、「ために書く」というタイトルの催しをしています。

授産施設の人が「何のために生きているんだろう」

というようなことを言われたのを聞き、強いインパクトを受けました。そういえば私たちは何のために書くのかということを深く考えたことがなかったと気づかされ、「ために書く」としました。

その取り組みの一つとして、授産施設の製品に書を提供しました。図9は、書文化専攻の学生が書いた「とどのいも子」という芋焼酎のラベルです。図10は「花ふきん」という刺しゅう入りのふきんです。すごく手間が掛っているのに、あまり売れていなかったそうです。そこに「花ふきん」という文字を付けたらすごく購買力が上がり人気が出てきた、特に外国の人が喜んで買ってくれるようになったとのことでした。また、世界遺産になった「富士山」という文字も書文化専攻の学生が書いて、バッグやタオルなどの商品に生かされています。

図11は「ねこお手玉」です。すごく時間を掛けて作っているのに200円と安価なのですが売れていない。ぎゅうぎゅうにビニールに包装してあって、窮屈でかわいそうな感じがしました。それで学生が字を書き、IllustratorやPhotoshopを使ってアレンジしてくれました。かわいいでしょう？ ハートバージョンもあります。この「ねこお手玉」もすごく人気が出て、今まで棚に放置されていたものがすぐになくなったと聞いています。同じように伊豆市の障害者支援事業所「えーる」というところの「ふくろうお手玉」にも文字を提供しています。このようにいろいろなものを作っています。夏に「フェスタシズウェル」というイベントがあったのですが、そのときにはショーウィンドウのレイアウトも全て学生が担当しました。

図12は、書いたものをやはりPhotoshopなどを使ってアレンジした缶バッジです。「Don't touch me!」が若い子に人気だそうです。また、「絆」は、やはり爆発的に売れたそうです。

図13は一閑張り（いっかんぱり）のトレーです。授産施設の障害を持った人が、竹のかごのようなものに和紙を水で伸ばしながら貼っていったものです。さらに上に柿渋を塗ることが多いのですが、これは素材感を生かしたいということで塗っていません。これにも書文化専攻の学生の書が生かされています。

■会話が始まった授産施設の人

図14は授産施設の人が紐を作っているところです。4回細い紐を動かして、やっと1ミリほどの紐にな



図9 書の提供事例（芋焼酎ラベル）



図10 書の提供事例（花ふきんなど）



図11 書の提供事例（ねこお手玉）

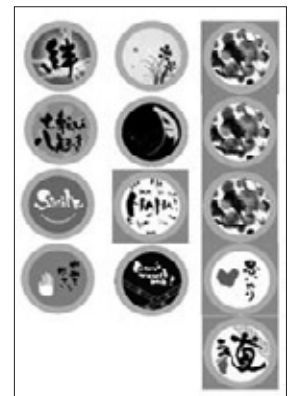


図12 書の提供事例（缶バッジ）



図13 書の提供事例（一閑張りのトレー）

ります。それから、学生が字を書いたコースターに、授産施設の人がニスをかけて磨いてくれます。それまで滅多に話をしなかった人が「何て書いてある?」「人生山あり谷ありと書いてある」「どういう意味?」「七転び八起き」と、話をしながら磨いていらっしゃるのです。受け身だった授産施設の人が「私は〇〇を磨きたい」と言うようになったことはとても大きな変化ですから、ただの商品製作ではないのです。この作業を通して会話がどんどん弾んできたそうで、とても嬉しく思いました。

中には51歳で内向的になっていらっしゃる方がいて、この方だけは組紐ではなく、部屋の片隅で一人だけビーズ通しをしておられました。とにかく潔癖性で、手を頻繁に洗わなくてはならないし他人と物を共有できない、人と一緒にすることができない。だから授産所のトイレも使えない。そういう方が、私が授産施設へお邪魔して書道体験をしたときに、お母さんに「ありがとう」という字を書きたい一心で、私が持っていった使い古しの筆を持って「ありがとう」と書き、一緒に行った学生の手を取って「ありがとね」と言ってくださったのです。それからは、それまで50年近くずっと閉ざしていたものが一気に弾けて開放的になられ、他の人も使う椅子にも座れるようになりました。人と同じ道具が触れるようになって、最近は組紐もしていらっしゃいます。そして、もっと驚いたことに、もう3回映画館に行ったそうです。今までなら人ごみに行くなんてとんでもなかった方なのですが、そういう大きな変化がありました。

図15は、授産施設を訪問したときの様子です。作業をしている横のテーブルで書きましたが、車椅子の方には床で書いてもらいました。さらに、授産施設では少し場所も狭いので、NPO法人が入っている呉服町の五風来館という会場をお借りして、10月27日に書道体験をしてもらいました(図16)。

また、書を提供して作成したコースターが社会福祉協議会賞を頂いたというので、報告に来てくれました(図17)。「書く」は自身の言葉なのです。言葉から紡いでいって書きたいことを書くということは、すごく大事なのだなと思いました。

また、来年(2014年)1月10日から12日まで書道展をやります。ポスターも学生が作りました(図18)。皆さんもぜひグランシップへ来て、皆さんの書いた作品を鑑賞してください。

最後に、「書く」ということは本当はすごく楽しいことだと思うので、ぜひぜひいっぱい書いてください。以上です。



図14 組紐制作風景



図15 書道体験の提供(授産所訪問)



図16 書道体験「ために書く」



図17 社会福祉協議会賞受賞報告に来校、書道室で記念撮影



図18 書道展「ために書く」ポスター